

## 6) 水管理

疎植栽培の水管理で重要なことは、中干しの開始時期である。疎植栽培で、中干しを慣行栽培と同じ時期に実施すれば、穂数が減少し、収量が低下する(図18)。

したがって、中干し開始時期は慣行栽培よりやや遅めとする(茎数350~400本/m<sup>2</sup>程度確保時から実施)。

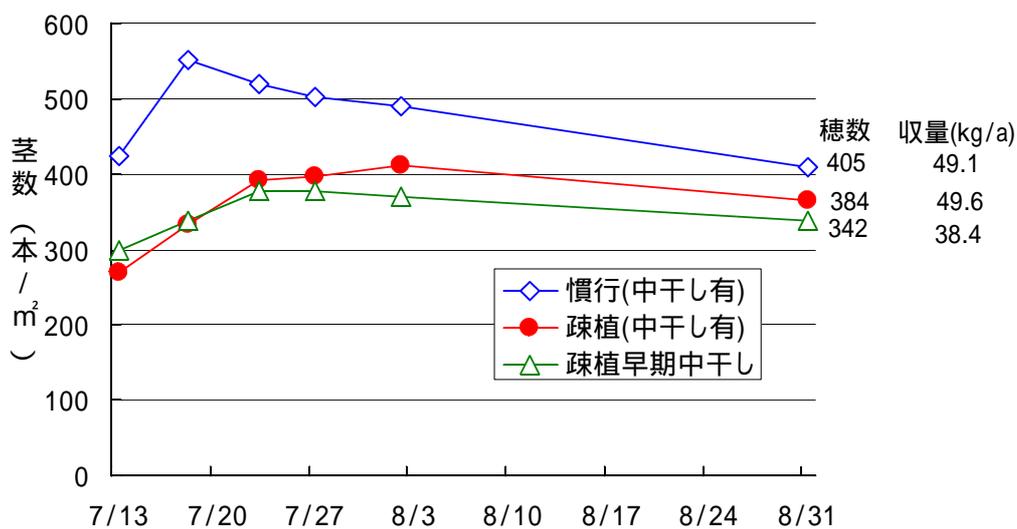


図18 中干し時期の違いによる茎数の推移(6/19植ヒカリ)

注) 矢印は、中干し開始時期を示す  
 疎植は11.1株/m<sup>2</sup>、慣行は18.5株/m<sup>2</sup>

表8 中干しと玄米品質

	良質粒割合(%)	玄米タンパク(%)	検査等級
中干し有	73.5	7.7	1.3
中干し無	69.7	8.4	2.0

注) ヒノヒカリ、慣行栽培

疎植栽培では、葉色も濃く、玄米タンパク質含有率もやや高くなる場合があるため、中干しは確実に行う。。

